

令和4年度 学校評価書 (計画段階)

特4

福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」

自己評価		学校運営計画(4月)		評価(総合)	
学校運営方針		幸福度日本一の特別支援学校を目指して、生徒一人一人の人権を尊重した教育活動を行い、自己肯定感・自尊感情を育む知的障がい教育の充実を図る。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標	
【成果】 生徒一人一人の実態及び障がい特性の把握、分析による個に応じた教育活動の実践		【一歩前へ】：専門性を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実		①教科・科目の学びによる知識・技能の習得 ②生徒が主体的に取り組む姿勢の育成 ③専門性の向上を目指す研修と活用	
【課題】 ・教職員の専門性向上における焦点化 ・校務分掌組織の活性化による校内での情報共有・統一の徹底 ・不登校傾向生徒等に対する生徒用パソコンを用いたりモーター授業等の実践		【社会に一番近い学校】：社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の推進及び進路指導の徹底		①社会の変化と個のニーズに応じた資質・能力の獲得 ②能力に応じた段階的なキャリア発達を促す指導体制の充実 ③職業学習における実践的課題対応能力の育成	
		【北学魂】：人と人のかかわりの中でたくまさを学ぶ機会の充実		①「生きる力」を育む体験活動の充実 ②社会との関わりの中で学ぶ機会の推進 ③自立活動の充実	
		【仲間との絆】：安心・安全・安定・共感・協働 思いやりのある学校		①人としての在り方生き方を学び、道徳性の獲得 ②人権感覚及び人権意識の高揚に資する実践 ③いじめを絶対に許さない安心・安全な学校づくりの推進	
		【チーム北学】：社会に開かれた学校		①働き方改革を意識した家庭や地域、関係機関との連携・協働 ②近隣校との交流及び地域催事への積極的な参加 ③センター的機能の発揮及びネットワーク機能の活用	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	教務課 学校教育活動全般に関する業務の充実及び円滑な運営	授業で有効なICTの活用を提示し、積極的な活用を促す。 「社会的・職業的自立」の力をつけるための教育課程が編成されているかの見直しを図る。			
	庶務課 PTA、振興会、同窓会との連携と円滑な運営に向けた活動の改善	PTA、振興会、同窓会との連携と協働に努めるとともに、活動の新しい形態の構築を図る。 生徒・保護者が必要とする情報を把握し、各団体の活動の充実にも努める。			
	1学年 基本的な生活習慣を確立し、自他の良さを認め合える人間関係の育成	生徒の状況の変化を捉えながら、計画的な学年集会や進路学習などを行うようにする。 生徒同士が互いを理解できるように、経験したことや気持ちの交流ができるよう、話し合い活動の機会を設ける。			
	2学年 生徒が自分で考え、判断し、行動しようとする態度や、社会的・職業的自立に必要な知識・技能・態度の育成	生徒一人一人の実態や障がいの特性を把握・分析し、個に応じた目標及び手立てを考え、必要に応じて他分掌や関係機関との連携を図る。 話し合い活動を通して生徒が自分の意見を述べ、行事等の企画や運営に主体的に携わろうとする態度を育成する。			
	3学年 生徒が自ら考え、主体的に行動する力や、卒業後の社会参加に必要な知識・技能・態度の育成	学校行事や学年の取組において、一人一人に役割をもたせ、行事の企画や運営に主体的に携わろうとする態度を育成する。 講演や体験、校外学習をとおして、社会で必要とされるマナーや態度、働くことの意義と権利について学び、新社会人としての態度を育成する。			
	生徒指導課 障がい認識(障がい受容)の促進と人権意識の向上	可能性を引き出すような自己選択・自己決定の場を与え、自己責任をもてるようにする 相互に人間として認め合う中で、自分を語り、協力し合い、お互いに学び合う関係を築く			
生徒指導部	保健課 自らの健康問題や自分なりの心と体の健康とは何かを把握し、自分らしい健康な毎日を過ごすことができる力の育成	生徒の心身の健康状態や生活背景からくる健康課題を把握し、心身の安定や健康課題を生徒自らが改善し健康の保持増進・健康管理を実践できる力を養う。 給食指導を通して健康や食事マナーを指導するとともに食事の大切さを伝え健康維持に努める態度を育成する。			
	寮務課 生徒が安心安全に過ごせる寄宿舎づくりと余暇活動、自治活動の充実	健康・衛生管理や危機対応に関する知識を深め、生徒自らが安全に行動できる力を育成する。 生徒が主体的に余暇活動や自治活動を行うことで寄宿舎生活を充実させ、楽しむことができるようにする。			
	進路指導課 自己の特性や適性を理解し、主体的に進路を選択することができる力の育成	3年生で主体的な進路選択ができるよう、1年生では、生徒の特性に応じた福祉サービス事業所での就業体験を実施し、2年生では個のニーズに柔軟に対応した就業体験を実施する。 生徒、保護者のニーズを十分に聞き取り、個に応じた適切な進路情報を提供すると共に、教職員間の情報共有に努める。			
研支援助部	支援・研修課 校内支援及びセンター的機能の充実 知的障がい教育に対する専門性の向上	必要に応じて迅速にケース会議を行うとともに、教育相談や巡回相談についての広報活動を行い、関係諸機関との連携を深め、校内支援の充実及び地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮する。 月1回の校内研修日を新たに設定し、校内研修の充実を図り、教員一人一人の専門性の向上を図る。			
	事務部 経営参画型の事務室業務の推進	各分掌と情報の共有を図り、生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。 生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で情報発信する。			

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた今後の改善策

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	<p>A：適切である</p> <p>B：概ね適切である</p> <p>C：やや適切である</p> <p>D：不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	